



# ふるさと海辺フォーラム

ハマボウフウ・ネットワーク2010

—自然豊かな海辺環境を次世代へ伝えていくために

日本中で急速に失われている海辺の自然。私たちには何ができるのでしょうか。各地で海辺の自然保護や清掃活動、地域おこしなどに取り組む人々が石狩浜に集まり、語り、海辺の環境保全の大切さを全国に発信します。

- ◎場所 石狩温泉ホテル番屋の湯
- ◎定員 100人
- ◎費用 500円(懇親会費4,500円/懇親会・宿泊費・朝食費11,000円は別途)
- ◎申込締切 7月7日(水) ※宿泊希望者は7月4日(日)
- ◎そのほか 会場まで送迎バスあり(要予約)  
10日13:20市役所発、11日8:30市役所発
- ◎主催・申込・問合せ  
石狩海浜植物保護センター ☎60-6107  
休館日(火曜)は☎72-3240(市役所内)  
✉ihama@city.ishikari.hokkaido.jp

2010 **7月10日** 土 14:15~18:00  
受付 13:00~

◎基調講演  
**全国の海浜環境の現状と課題**  
—全国海岸植物群落調査報告  
講師 (財)日本自然保護協会 開発 法子氏

- ◎団体活動報告会  
宮城県名取ハマボウフウの会、神奈川県湘南ゆいぽか
- ◎懇親会 18:30~21:00

2010 **7月11日** 日 9:00~15:00  
受付 8:45~

◎エクサカーション(体験型見学会)  
—はまなすの丘海浜植物保護地区・海浜植物保護センター・砂丘車走行跡など視察

- ◎石狩浜の自然と保全活動に関する報告  
石狩浜定期観察の会、北方菌類フォーラムほか  
コーディネーター 北海道大学農学研究院助教 松島 肇氏
- ◎意見交換会



「ふるさと海辺フォーラム」  
開催記念企画

# 石狩浜の 魅力。

日本の自然海岸といえば「白砂青松<sup>はくしゃせいしょう</sup>」という言葉で表現されるような、砂浜と松林の風景を想像する人が多いと思います。しかし、これらは江戸時代以降に植林により人為的に作られた風景なのです。

では、本来の砂浜海岸とはどのような海岸でしょう。

海岸は栄養分と水分に乏しく塩分や砂の移動が多い、植物にとって非常に住みにくい環境です。しかし、海から離れるにつれ、次第に植物にとって住みやすい環境に変化していきます。

この変化を目で確認できるのが石狩浜なのです。砂浜から内陸に歩くと海岸性の植物で覆われた草原になり、次第にハマナスのような低木が出現し、最終的にはカシワを主体とした森に変化します。理科の授業で習った植生の遷移<sup>せんい</sup>が空間的に観察できるのです。このような海岸は、かつては日本中にあったはずなのですが、ほとんどの海岸は開発や植林で改変されてしまいました。石狩浜のように大都市圏で大規模に連続性を保ったまま残されているのは奇跡に近いでしょう。海岸草原は温暖湿潤な気候の日本では希少な自然草原です。また、天然のカシワ林は日本一の規模とされています。

日本では絶滅危惧ともいえる石狩の海岸環境は、後世に残すべき貴重な財産なのです。

北海道大学大学院 農学研究院  
助教 松島 肇<sup>まつしま はじめ</sup>